

令和2年度 いずみ中央地域ケアプラザPDCAシート_公表用 (事業計画書、事業報告書、事業実績評価)

— 総括表 —

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

担当エリアは住民主体の地域福祉活動が活発で、地域の福祉拠点である常設サロン「いこいの家」があります。また、住民間の支えあいの仕組み「ふれあいヘルプ」が実施されている等、泉区内でも先駆的な取組を実施している地域です。それ以外にも、10の各自治会町内会単位で高齢者サロンがあり、体操教室も13団体ある等、地域活動も盛んです。様々なお祭りやイベントも活発に実施されており、連合や地区社協・民児協が連携しながら積極的に福祉に取り組んでいる地域でもあります。しかし、この地域も高齢化が進んでおり、認知症になっても住み易い街づくりや様々な活動の担い手の育成、高齢者の外出支援や移動に関することは課題となっているため、今後も取り組んでいく必要があります。

今年度の重点的な取組

新規	継続	— 具体的な取組内容 —
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	当ケアプラザオリジナルの見える可シートをこまめに更新していきます。また泉区作成の「地域づくりベースマップ」を活用し、担当エリアの地域資源や相談状況等を可視化します。可視化した情報を基に地域アセスメントを行い、必要な支援等を6職種で検討し実行します。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	会館のない町内会やマンションの町内会では高齢者向けサロン等が実施されておらず、地域ニーズや困っていることを聞く機会が限られています。今年度は地域ケア会議の開催や、町内会長や担当民生委員へのヒアリングを行い必要とされている支援を6職種で検討します。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	令和3年度からの包括エリア変更を見据え、新たにエリアとなる町内会との関係構築に務めます。また現在包括エリアを担当するケアプラザとも情報交換の場を設けます。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	昨年度発足した和泉中央地区の高齢者の外出支援について考える「和泉中央お出かけプロジェクト」を地域住民の皆様や企業、社会福祉法人、行政等多様な主体とともに進めます。今年度は「お出かけサポート事業」の試行やひとやすみできるベンチの設置、休憩できるスペースの提供やトイレの貸出等を働きかけていきます。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	昨年度泉区の地域介護予防活動支援事業「男のハマトレマスター講座」に協力し、地域の介護予防に資する人材の育成に取り組みました。今年度は受講者が切れ目なく、地域の介護予防に資する人材として活動の場の新たな創生やコーディネートに取り組めます。また新規事業開催において、活動をサポートしてくれるボランティア発掘に務めます。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

・新型コロナウイルスの流行により、担当エリアではサロンやお祭りなどの行事が軒並み中止となりました。そのため、直接的なコミュニケーションをとることが難しかったため、広報紙やHPによる情報発信と介護予防啓発に力を入れました。
 ・区が作成した「泉区地域づくりベースマップ」を活用し、ケアプラザ職員が地域を回り、地域の特徴等をまとめた「和泉中央連合見える化マップ」を作成し、地域の見える化に努めた。地域を巡る中で、道の起伏や会館に行くまでの大変さを感じることが出来ました。
 ・認知症カフェやサロン等の活動再開に向けて区社協(地区担当)とも連携し、再開に向けての提案や情報提供を行いました。
 ・会館のない町内会等を対象に、町内会役員へ電話での聞き取りを行い地域とケアプラザとの、顔の見える関係の構築と新たな地域情報の収集に取り組むことが出来ました。
 ・令和3年度の担当エリア変更に向けて、新たなエリアの町内会や民生委員と連携を取ることが出来るよう、関係構築に努めました。また、現在変更エリアを担当するケアプラザとも話し合いや情報交換を行い、スムーズなエリア変更が出来るよう取り組んでおります。

区からのコメント

(地域活動交流)
 緊急事態宣言の影響により地域活動が中止になる中、逆にその期間を利用し、地域探索を行い、実際に地域を歩いてみることで、見える化マップやケアマネ向け地域資源ガイドの作成に取り組んだことは評価できます。
 来年度から、担当エリアが変更となりますが、これまでは特に問題なく、円滑に移行を進めていただいています。今後も引き続き、利用者への丁寧なフォローをよろしくお願いいたします。

(地域包括支援センター)
 サポーター養成講座の周知における事業所や店舗への訪問、ケアマネジャーへの支援としての「地域支援ガイド」の作成検討・独自アンケートの実施など、コロナ禍においても繋がりを意識した地域支援が着実に進められています。また、今年度は協力医による勉強会も開催でき、地域の医療機関と顔の見える関係づくりが行えました。
 次年度も、作成したツールの活用・周知、講座開催など、ニーズに沿った地域支援を期待しています。

(生活支援体制整備事業)
 コロナ禍で「外出する機会が減った高齢者を元気にしよう」という小学校のプロジェクトは、企画、ICTの活用、多機関連携においても先進的な素晴らしい取組となりました。また、ケアプラザ職員一丸となって、情報の見える化も積極的に進めることができました。
 次年度もより多くの方が「地域包括ケアシステム」に関心を持って活動できる取組を期待しています。